

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
B-141	22-409	厚生会 道ノ尾病院 福嶋翔 独立行政法人国立病院機久里浜医療センター松下幸生
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Investigation of brain functional connectivity to assess cognitive control over cue-processing in Alcohol Use Disorder アルコール使用障害における刺激処理に対する認知制御を評価するための脳機能結合の検討		
<b>執筆者</b>		
Strosche A, Zhang X, Kirsch M, Hermann D, Ende G, Kiefer F, Vollstädt-Klein S.		
<b>掲載誌</b>		
Addict Biol. 2021 Jan;26(1):e12863. doi: 10.1111/adb.12863. Epub 2020 Jan 6.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール使用障害、渴望、刺激反応、脳機能画像、機能結合性、心理的相互作用		31908107
<b>要旨</b>		
<p>アルコール使用障害は、報酬処理と認知制御の基盤となる神経ネットワーク間の機能的結合の障害と関連している。アルコール使用障害患者では、線条体、島、前頭皮質間の機能的結合が安静時に異常である証拠が存在するが、刺激曝露時には異常がない。本研究では、習慣飲酒者の異なるサブグループ間で、刺激反応課題中の機能的結合の変化を調査した。96名の参加者（軽度の社会的飲酒者から重度の社会的飲酒者、非常用飲酒者から常用飲酒者まで）を対象に検討した。機能的磁気共鳴画像法による刺激反応系列表を用い、アルコール関連刺激と中性刺激を呈示した。</p> <p>心理的相互作用分析を適用し、我々は以下のことを発見した。(a)断酒しているアルコール依存症患者は断酒していない依存性飲酒者と比較して、アルコール刺激提示時に腹側線条体および前島と前帯状皮質および背外側前頭前野の機能的結合がニュートラル刺激と比較して大きく増加した。(b)主観的渴望は、島後部と内側眼窩前頭皮質の機能的結合の変化と正の相関があり、腹側線条体と前帯状皮質、背外側前頭前野、外側眼窩前頭皮質の機能的結合の変化とは負の相関があった。(c)アルコール使用の強迫性は、背外側前頭前皮質と腹側線条体、島前部、島後部との間の機能的結合の変化と正の相関があった。</p> <p>この結果は、断酒中のアルコール依存症患者において、刺激処理に対する認知的コントロールが高まり、刺激によって引き起こされる渴望や強迫的使用の高いレベルを補っていることを示唆するものであった。</p> <p>臨床試験登録の詳細 臨床試験登録の詳細 : ClinicalTrials.gov ID: NCT00926900</p>		